

# 進路だより

令和8年3月6日(金)  
岩手県立花巻清風支援学校  
進路部 第5号

## 毎日の積み重ね

副校長 畠山 恵子



今年の2月6日から22日まで開催されたミラノ・コルティナオリンピックで、日本は合計24個のメダルを獲得し、冬季オリンピック史上最多記録を更新しました。金メダル獲得数は1998年の長野オリンピックと並ぶ最多で、フィギュアスケート「りくりゅう」ペアの金メダルなど、多くの日本選手の活躍が光った大会となりましたが、私はスノーボード男子ハーフパイプに出場した平野歩夢選手の姿が強く印象に残っています。

平野選手は15歳でソチ五輪銀メダル、次の平昌五輪でも銀メダル、そして北京五輪で金メダルを獲得した世界のトッププレイヤーです。今回の五輪では7位という成績でしたが、骨盤骨折後1ヶ月も経たない中で五輪に出場した彼は、決勝終了後のインタビューで爽やかな笑顔を浮かべながら、こう述べました。

「1本目で転倒しましたが、自分が今やれることはやったので。悔しさは残りますが、今まで歩んできたものは無駄なものではないと思うので、またゼロから積み上げていければなと思っています。」

メダルに届かなくても表情を曇らせることなく、これまでも相当努力を重ねてきたであろう選手が「またゼロから積み上げる」と言える強さに、心から感動しました。そんなふうと言えるのは、メダル獲得だけを目的にしているのではなく、毎日の積み重ねを大切に、意味のある時間を過ごしてきたからなのだろうと感じます。このことは学校生活にも通じるのではないのでしょうか。苦手なことや不得意なことも毎日の学習活動を通してできるようになり、自信がついていきます。その後何かに失敗したとしても、これまで積み重ねてきたという自信をもとに、再度挑戦して克服することで成長していくのです。この繰り返しの先に卒業後の進路があります。

高等部3年生17名は現場実習や随時実習を経験し、それぞれの卒業後の進路を無事に決定することができました。この結果は、毎日の積み重ねを大切に過ごしてきた生徒自身の結果であり、そんな生徒の毎日を支えてくださった御家族のお蔭でもあります。改めて感謝申し上げます。

卒業生の皆さんはそれぞれの進路先で自分の可能性を広げ、それぞれの地域の中で自分らしい生き方を確立してください。在校生の皆さんは4月からそれぞれ新しい学年や学部での生活を迎えます。慣れない環境に戸惑うこともあると思いますが、苦しい場面こそ成長のチャンスです。私達は児童生徒個々の特性を見て、どのような支援をすれば課題を乗り越えられるかをしっかりと見極め、適切な指導・支援に努めます。一人ひとりの発達段階に合った適切な指導・支援ができるよう、学級はもちろん、学年や学部・分教室、そして学校全体で取り組んでまいりますので、今後とも御協力くださいますようお願い致します。

お子様の更なる成長を目指し、これからもお互いに手を携えてまいりましょう。

## 第2回企業との連携協議会

2月3日（火）本校体育館にて『第2回企業との連携協議会』（生徒と企業の実習に向けた相談会）を開催しました。対面での面談を通して、企業の生徒理解や実習の検討と生徒の働くイメージの具体化や自分自身の進路について考えることを目的として、毎年実施しています。

今回は、花巻・北上・遠野地区の企業20社、本校高等部1・2年生の生徒16名ほか、中部圏域の特別支援学校や高等学校に在籍する生徒20名（合計36名）が参加し、15分の面談を4回行いました。企業からは、企業の概要や仕事内容、企業の求める人材等の紹介及び説明をしてもらい、生徒からは、仕事をする上で必要な力や今のうちに身に付けておくべきこと等の質問が多く出ていました。

この面談を通して、生徒自身が次年度の実習や自分の進路についての考えを深め、日々の学校生活で目的意識をもって過ごすことができるようになってほしいです。



## 高等部1年進路見学

2月6日（金）に、高等部1学年で進路見学として花巻市内の企業や事業所を訪問し、施設の方から説明を受け、働いている様子を見学させていただきました。生徒達は、次年度の実習をイメージしながら「どんな仕事があるのか」「何のために働くか」などについて意識しながら学ぶことができました。そして今回の学習を通して、今、自分が身に付けなければいけない力についての意識を高めることができました。



積極的に  
質問しま  
した。

働きやすさ  
やミスが出  
ないように  
たくさんの  
工夫がされ  
ていまし  
た。



※掲載写真の無断使用や SNS 等への投稿はお控え願います。